

学 会 録 事

日本藻類学会第 38 回大会 (船橋) 報告

(1) 日本藻類学会第 38 回大会 (船橋)

上記大会を 2014 年 3 月 14 日 (金) ~ 16 日 (日) に東邦大学習志野キャンパスにて開催した。

大会 1 日目は、午後に編集委員会、評議員会、アルガルムービー鑑賞会 (コンピナー: 土金勇樹氏, 早川昌志氏) を行った。2 日目は、口頭発表 (2 会場), ポスター発表 (奇数番号), シンポジウム「若手研究者による緑色藻類研究最前線 - 何が何処までわかったのか? -」(講師: 宮地和幸氏, 丸山真一朗氏, 浜地貴志氏, 市原健介氏, 土金勇樹氏, 加藤将氏), 総会, 懇親会を行った。3 日目は、口頭発表 (2 会場), 公開講演会「ちば・知られざる藻類の世界発見 ~ 多様性と絶滅, そして日本の味 ~」(講師: 鈴木雅大氏, 佐野郷美氏, 林俊裕氏), ポスター発表 (偶数番号), ワークショップ「淡水藻類の採集, 観察と同定入門」講義編 (講師: 新山優子氏, 辻彰洋氏, 大谷修司氏) を行った。

また, ワークショップ「淡水藻類の採集, 観察と同定入門」実習編 (講師: 同上) を 3 月 17 日 (月), 18 日 (火) に東邦大学習志野キャンパスで, エクスカーション「東京湾多摩川河口干潟アサクサノリ観察会」(講師: 菊地則雄氏) を 3 月 17 日 (月) に大師河原干潟館他で行った。

(2) 編集委員会・評議員会

大会 1 日目 (3 月 14 日) 15:00 より東邦大学習志野キャンパス III 号館にて, 英文誌および和文誌の合同編集委員会を行った。

英文誌については, 神谷充伸英文誌編集委員長から「Phycological Research」の 2013 年度および 2014 年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2013 年度については 61 巻が総頁数 315 頁, 掲載論文数 36 編であったこと, 2014 年度については 62 巻 1 号に 9 編が掲載され, 2 号に 8 編の掲載予定で, 3 号以降の受理論文数は 2 月 15 日現在 9 編であることが報告された。編集にかかる日数, 投稿者の国名, 2012 年までのインパクトファクターの推移, 編集体制, 電子投稿システムの運用 (業務の日数の変更, Auto-Decline 機能と Auto-Promote 機能の導入), 著作権書類の update に関して報告があった。投稿料および超過ページ代の未払いに対する対応について審議が行われ, 超過ページが高額になりそうな論文に関しては, アクセプト前に著者にその旨を知らせるなどの配慮をすることとなった。WileyBlackwell 社の荒生由香里氏から 2013 年度の英文誌出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明があった。

和文誌については 島田智和文誌編集委員長より「藻類」の 2013 年度および 2014 年度の編集状況に関する報告があった。2013 年度については 61 巻に 7 編の原著論文のほか, 特集: 研究奨励賞受賞記念, 論文賞受賞記念, 「藻類」創刊 60 周年記念: 「藻類」の変遷等の報文 22 編, 大会プログラムと同講演要旨, 企画記事, 学会録事等が掲載され, 総頁数は 174 頁

であったことの報告があった。2014 年度については 62 巻の刊行計画, 編集方針について説明があり, 審議が行われた。

評議員会は編集委員会終了後, 同会場にて 16:30 より行われた。2014 年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議が行われた。内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2014 年度総会

大会 2 日目 (3 月 15 日) 17:15 より東邦大学習志野キャンパス V 号館にて, 総会を行った。田中次郎学会会長と宮地和幸大会会長の挨拶の後, 宮田昌彦氏 (千葉県立中央博物館) を議長に選出し, 議事に入った。

【報告事項】

・庶務関係

(1) 会員状況 (2014 年 2 月 28 日現在): 名誉会員 4 名, 普通会員 976 名 (国内・一般 610 名, 国内・学生 194 名, 外国 172 名), 団体会員 43 名, 賛助会員 9 名, 「藻類」国内購読 13 件 (5 月 8 日現在)。

(2) 2013 年度事業報告: 1) 日本藻類学会第 37 回大会・評議員会・総会 (山梨大学甲府西キャンパス, 2013 年 3 月 27 ~ 29 日) の開催, 2) 和文誌「藻類」61 巻 1 ~ 3 号の発行, 3) 英文誌「Phycological Research」61 巻 1 ~ 4 号の発行 (1, 4, 7, 10 月発行), 4) 第 16 回日本藻類学会論文賞の授与と第 17 回日本藻類学会論文賞の選考, 5) 第 9 回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与と第 10 回日本藻類学会研究奨励賞の募集, 6) 藻類学ワークショップ「藻類イラスト講座」(2013 年 3 月 27 日 (水), 山梨大学甲府西キャンパス L 号館 232 号室) の開催, 7) 和文誌「藻類」の転載許可状況 (2 件), 8) 自然史学会連合の事業に参加, 2013 年 12 月 22 日に東京大学総合研究博物館ミュージアムホールで開催された 2013 年度自然史学会連合総会に北山太樹会員が出席, 一般向け自然史書籍が誠文堂新光社「子供の科学」90 周年特別企画の一環として出版予定 (編集委員として北山太樹会員が出席, 本学会から数名の会員が執筆に協力予定), 9) 日本分類学会連合の事業に参加, 2014 年 1 月 11 日に国立科学博物館上野本館講堂で開催された日本分類学会連合第 13 回総会およびシンポジウムに鈴木秀和庶務幹事が出席, 10) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加, 2013 年 5 月 20 日および 11 月 28 日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された平成 25 年度第 1 回協議会および第 2 回協議会に田中次郎会長が出席, 11) 日本学術会議主催学術フォーラムを後援, 2013 年 11 月 29 日に日本学術会議講堂 (東京都港区六本木) で開催された日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」の第二部座長を田中次郎会長が務めた, 12) 和文誌「藻類」バックナンバー第 1 巻 ~ 第 30 巻 PDF file の学会 HP 上への掲載, 2014 年 3 月 12 日現在, 第 60 巻第 1 号まで閲覧・ダウンロード可能, 13) 学会 HP によ

表1 2013年度一般会計決算(2013.1.1-2013.12.31)

収入(円)			支出(円)		
会費		5,413,666	和文誌経費		2,130,995
普通(国内・一般)	3,570,666		英文誌経費		5,142,900
普通(国内・学生)	378,000		編集費		61,800
外国会員	335,000		和文誌編集補助費	61,800	
団体会員	860,000		英文誌編集補助費	0	
賛助会員	270,000		庶務費		275,869
和文誌関係収入		608,593	事務用品費	18,277	
定期購読	147,150		会議費	0	
バックナンバー	23,350		通信印刷費	257,592	
別刷・超過頁代	316,000		諸雑費	0	
広告代	120,000		幹事旅費補助		1,000
著作権許諾料金	2,093		大会補助費		60,000
英文誌関係収入		1,798,504	自然史学会連合分担金		20,000
掲載料・超過頁代	1,566,000		分類学会連合分担金		10,000
版權還付金	232,504		レンタルサーバー代		6,800
受取利息		1,497	過払い金返金		8,000
小計		7,822,260	60周年記念事業		58,438
前年度繰越金		13,337,814	小計		7,775,802
合計		21,160,074	次年度繰越金		13,384,272
			合計		21,160,074

表2 2013年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(2013.1.1-2013.12.31)

収入(円)	支出(円)
前年度繰越金	2,539,513
	論文賞用雑費
	24,000
	次年度繰越金
	2,515,513
合計	2,539,513
	合計
	2,539,513

表3 2013年度研究奨励賞事業特別基金会計決算(2013.1.1-2013.12.31)

収入(円)	支出(円)
前年度繰越金	2,741,115
	奨励賞賞金
	100,000
	次年度繰越金
	2,641,115
合計	2,741,115
	合計
	2,741,115

日本藻類学会 2013 年度決算書に対し記名捺印する
 2013 年度 会 長 田中 次郎 印
 2013 年度 会計幹事 松岡 孝典 印
 決算書が適正であることを認める
 2013 年度 会計監事 坂西 芳彦 印
 2013 年度 会計監事 倉島 彰 印

2014年3月12日

2014年3月12日

る情報配信, 主な掲載内容はシンポジウム等のお知らせ7件, 教員・研究員募集3件, 14) 学会連絡メールによる情報配信, 現在, 299名の方がメーリングリストに登録, 主な配信内容はシンポジウム等のお知らせ8件, 教員・研究員募集2件, アンケート等3件, その他お知らせ4件。

・会計関係

(1) 2014年2月28日現在の2013年度会費納入率(雑誌発送会員を対象)は, 普通会員(国内・一般)96%, 普通会員(国内・学生)100%, 普通会員(外国)69%, 賛助会員88%, 団体会員68%であった。

(2) 2013年度一般会計決算等, その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2013年度に発行した英文誌「Phycological Research」61巻1～4号は, 総頁数は315頁, 掲載論文数36編であった。

(2) 2013年度に発行した和文誌「藻類」61巻1～3号は, 総頁数は174頁, 内訳は原著論文7編のほか, 特集: 研究奨励賞受賞記念, 論文賞受賞記念, 「藻類」創刊60周年記念: 「藻類」の変遷等の報文22編, 大会プログラムと同講演要旨, 企画記事, 学会録事等であった。

これらに関連した詳細については, 前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

・会計関係

(1) 2013年度一般会計決算報告および同監査報告(会計監

事：坂西芳彦氏，倉島彰氏）は表1のとおり承認された。

(2) 2013年度山田幸男博士記念事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表2のとおり承認された。

(3) 2013年度研究奨励賞事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表3のとおり承認された。

(4) 2014年度一般会計，山田幸男博士記念事業基金特別会計，および研究奨励賞事業基金特別会計の予算は表4，表5および表6のとおり承認された。

・庶務関係

2014年度事業計画として以下の事項が承認された：1) 日本藻類学会第38回大会・評議員会・総会（東邦大学習志野キャンパス，2014年3月14日～16日）の開催，2) 和文誌「藻類」62巻1～3号の発行，3) 英文誌「Phycological Research」62巻1～4号の発行（1，4，7，10月発行），4) 日本藻類学会会長選挙および評議員選挙の実施（9月），5) 第17回日本藻類学会論文賞の授与と第18回日本藻類学会論文賞の選考（12月），6) 第10回日本藻類学会研究奨励賞の選考，授与と第11回日本藻類学会研究奨励賞の募集，7) 「アルガムムービー鑑賞会」（2014年3月14日，東邦大学理学部Ⅲ号館203室）の開催，8) 日本藻類学会第38回大会企画シンポジウム「若手研究者による緑色藻類研究最前線－何が何処までわかったのか？－」（2014年3月15日，東邦大学理学部V号館5101教室）

の開催，9) 公開講演会「ちば・知られざる藻類の世界発見～多様性と絶滅，そして日本の味～」(2014年3月16日，東邦大学薬学部C棟C101講義室)の開催，10) 藻類学ワークショップの開催，(1) 「淡水藻類の採集，観察と同定入門」講義編(2014年3月16日，東邦大学理学部V号館5209教室)，(2) 「淡水藻類の採集，観察と同定入門」実習編(2014年3月17，18日，東邦大学理学部Ⅱ号館生物学科顕微鏡実験室2308室)，11) エクスカーション「東京湾多摩川河口干潟アサクサノリ観察会」(2014年3月17日，大師河原干潟館他)の開催，12) 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載，13) 自然史学会連合の事業に参加，14) 日本分類学会連合の事業に参加，15) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加，16) 学会HPによる情報配信，17) 学会連絡メールによる情報配信，18) 第16回バイオテクノロジー学会大会(2014年5月31日～6月1日，三重大学生物資源学部)の協賛。

・その他

(1) 日本藻類学会第39回大会(2015年)の開催地を九州大学(福岡)とすることが承認された。

【日本藻類学会論文賞授与】

第17回(2013年)日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2013年に発行された英文誌

表4 2014年度一般会計予算(2014.1.1-2014.12.31)

収入(円)			支出(円)		
会費		5,240,550	和文誌経費		1,600,000
普通(国内・一般)	3,382,400		英文誌経費		5,000,000
普通(国内・学生)	365,750		編集費		300,000
普通(外国)	372,400		英文誌編集補助費	200,000	
団体会員	880,000		和文誌編集補助費	100,000	
賛助会員	240,000		庶務費		447,000
和文誌関係収入		369,500	事務用品費	30,000	
定期購読	85,500		会議費	60,000	
バックナンバー	3,000		通信印刷費	350,000	
別刷・超過頁代	160,000		諸雑費	7,000	
広告代	120,000		幹事旅費補助		40,000
著作権許諾料	1,000		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		1,300,000	自然史学会連合分担金		20,000
超過頁代・掲載料	1,050,000		分類学会連合分担金		10,000
版權還付金	250,000		レンタルサーバー代		6,800
受取利息		1,000			
小計		6,911,050	小計		7,543,800
前年度繰越金		13,384,272	次年度繰越金		12,751,522
合計		20,295,322	合計		20,295,322

表5 2014年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算(2014.1.1-2014.12.31)

収入(円)		支出(円)	
受取利息	普通預金 200	論文賞用雑費	33,600
前年度繰越金	2,515,513	次年度繰越金	2,482,113
合計	2,515,713	合計	2,515,713

表6 2014年度研究奨励賞事業特別基金会計予算(2014.1.1-2014.12.31)

収入(円)		支出(円)	
受取利息	200	奨励賞賞金	200,000
前年度繰越金	2,641,115	次年度繰越金	2,441,315
合計	2,641,315	合計	2,641,315

「Phycological Research」61 巻 1～4 号の中から、規定に従い審査員の投票によって選ばれ、合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ、論文の著者に賞状および記念品が授与された。

Yuji Tomaru, Kensuke Toyoda, Kei Kimura, Yoshitake Takao, Kiyonari Sakurada, Natsuko Nakayama and Keizo Nagasaki.

Isolation and characterization of a single-stranded RNA virus that infects the marine planktonic diatom *Chaetoceros* sp. (SS08-C03). Phycological Research 61 (1): 27-36.

【日本藻類学会研究奨励賞授与】

第 10 回（2014 年）日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、評議員会で了承されたものである。今回は市原健介氏（日本女子大学理学部、緑藻アオサ属藻類の低塩濃度適応に関する分子進化学的研究）と大田修平（東京大学大学院新領域創成科学研究科、微細藻類を用いたバイオ燃料増産株作出に関する基礎研究と新技術開発）が選ばれ、それぞれに賞状および副賞（賞金 10 万円）が授与された。

会 員 異 動

新入会	機関名または氏名	所属機関または自宅住所
個人会員		

所属変更	氏名	所属機関
個人会員		